

西南暖地における青刈とうもろこしの多収技術

宮崎県総合農業試験場都城支場

副島四郎

輸入牧草種子に混入する
雑草の種類..... 横山 春男

松原 守

表二

表三

西南暖地における
青刈とうもろこしの
多収技術..... 副島 四郎

春男

表一

一品種

多収を上げるために適品種を選ぶことが大切である。三年ほど前に青刈り用の種子が不足して、飼料用に輸入された子実を種子用に転用されたことがあるが、その品種が感温性（高温によって出穗が促進される性質）が高過ぎたため、充分成長しないうちに出穂して減収したことは記憶に新しいことと思う。

品種は利用目的、栽培時期によって替えることが望ましく、六月の青刈給与のためには初期生育の旺盛な交三号、交七号或は熊本県在来種の早玉などやや早生種が早く成長するので早刈りが可能であり、栄養収量を加味したサイレージ用として極多収を狙う時には、やや晚生種が多収で交一号、ホワイトデントコーン、熊本県在来種の大デントなどが好適する。これらの晚生品種はまた多収を得るための青刈用にも適する。

早期水稲の跡作などで八月に播種し、雌穂を着けたサイレージ用としては、早刈用と同様やや早生種が有利である。

一般に暖地には感光性（日長時間が短く

なって出穗が促進される性質）の高い品種が適し、寒地の品種は逆に感温性程度が強い。サイレージ用は茎葉重ばかりでなく栄養収量の面から雌穂重の多いデント種（ホワイトデントコーンなど）や、これとブリント種（大デントなど）との一代雜種（交一号など）が最適である。

各県では奨励品種が選ばれており、酪農組合や農協で種子の斡旋がなされているので、その中から選べば間違いないと思われる。

二肥料

本在来種は少肥でもあまり減収しないが、交雑種（F₁）は多肥で増収効果が高いので多収を期待する場合は交雑種（父一号など）を選び多肥栽培にするのが理想的である。

最近、粒状の化成肥料が出回り、県や経済連ではとうもろこし用の肥料も準備されているので、単肥に比べて省力の意味でも有利である。磷酸・カリは全量基肥に施してもよいが、窒素は二分の一から三分の二量を追肥に施す方が雌穂重を増すのによい。

追肥の時期は葉数で九枚（節間が伸び始める）頃が適期である。

以上はサイレージ用であるが、青刈用は

生育期間が短いので少し減量してよく、全量基肥に施せばよい。何れの場合でも金肥の外に堆肥はなるべく多く施すべきで、一坪当たり成分一二キロ以下では不足し、一六キロ以上になると倒伏して減収している。

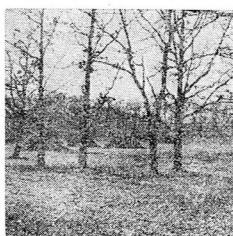
この場合は一五キロ程度が適量と考えら

れる。

磷酸、カリは窒素などの影響はない

三播種

播種期は前作や利用時期、気象条件によ



表紙写真 野乾草

野草（ヨシ等）も冬季の乾草・敷草として重要であり、雪の少ない北海道の勇払原野ではこの様な光景はよくみられるが、草地改良、排水等で野草地を牧草地化して生産性を高める工夫も盛んである。（早来町にて）

東北地方の酪農（畜産）と
草地飼料作物(1)：三浦梧樓

表三

□近代化を進める
電ボクの下草を枯らす特効薬
ハイバーx
新優良品種 交8号
(長交347号)の特性と
栽培適地..... 仲野 博之
農愛知県における
ソルゴー栽培..... 成田 義三
栽培のポイント..... 山本 茂雄
表二

表二

表三

■スイートコーンの品種特性と
栽培のポイント..... 山本 茂雄
表二

表二

表三

ード) が適し、抑制期間が長く殺草効果が高い、薬害も殆どない。使用量はどちらの場合でも成分量で一〇kg 当り一五〇g が適量で、水一〇〇kg に溶解して播種直後に畑全面に均一に散布する。

四 裁植密度

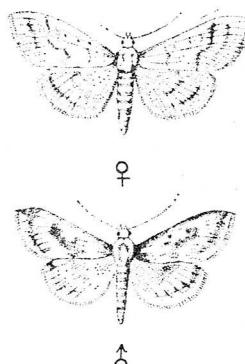
サイレージ用は収量に重点をおき、大きな雌穂を着けることが大切である。そ



青刈りとうもろこしは多肥密植で収量多い

つて異なるが、早播きの限界は都城市(標高一五〇m、中九州の気候に近い)では三月中旬で、平均气温が一〇度C の頃である。

発芽当時霜害により地上部は枯れても葉数が三枚以内の場合には再び伸長して収量に殆ど影響はない。晚播きの限界は同じく都城市では八月二十日で、やや早生品種では糊熟期に達する。しかし晚生品種では七月末が限界となる。このように暖地での播種期の幅は広いが、一般に早播きほど多収であり、台風や旱ばつの災害も少なく、病害虫の被害も少ないので、適期は三月下旬から四月下旬であろう。この場合の糊熟期は七月下旬から八月中旬になる。六月の青刈播種量は栽植様式、利用法、品種(種子の大小)によつても異なるが、一般に厚播きになっているものが多い。現状ではもつと薄播きにすることが多収の要点といえる。



アワノメイガ成虫



アワノメイガ成虫

3 ダイメイ虫の防除

四~五月に播種すると、草丈一尺の頃までに芯を食害されて次々に枯れてゆく被害の最も大きい害虫である。このため一般に播種期を遅らせたり、厚播きになつているようである。しかし三月と六月以降の播種では被害が少ないので、多収のためには三月播しが望ましい。

これを防ぐには発蛾最盛期(都城市では平年で五月上旬)にNAC粒剤(ナック粒剤またはデナポン粒剤)を一〇kg 当り三~四kg(一株当たり五~一〇粒)株の芯に入れる。被害の著しい所では、発蛾最盛期を中心に七~一〇日おきに二回散布すれば、殆ど被害が出ない。この薬剤の効果は顯著であるので、早播きの場合でも是非実施すべき重要な事項である。

4 アワノメイガの防除

この虫に食害されると雄穂が抽出した頃、穂首の付近から折れて、花粉が不足し雌穂は不稔が多くなるので、サイレージ用の場合は防除する必要がある。薬剤はダイメイ虫の場合と同じく、NAC粒剤を雄穂の抽出する以前(草丈が一五〇cmの頃)に同じ要領で一~二回散布する。

6 収穫

1 間引 手数の掛る作業ではない。多収を得るには一ヵ所二~三粒播として、病害虫の被害株や不良株を間引き一本立てとする。時期は五~六葉の頃に早目に行ない予定の株間とする。

2 中耕、除草、土寄せ 脱草剤を使用した場合は一ヵ月半位抑制効果があるので、追肥時期まで中耕しない方がよい。使用してない時は間引カルチベーターなどを通して除草を兼ねる。窒素質肥料(硫酸など)を株元から一〇cm位離して条に追肥した時に、中耕除草を兼ねて一〇cm位株元に土寄せする。

サイレージ用の刈取り時期は一般に早過ぎるようである。これまで厚播きのため下葉は枯り上り、稈が硬化するので早刈りされたと思われるが、栽培法を改めて穂に養分が蓄積され、子実が硬くならない糊熟期になった頃に詰込むべきである。糊熟

U(カーメックス)がA一二四(ゲザガ

期は粒を爪で押して糊状のものが出来る時期である。

七 輪 作

早播きの場合の前作は飼料かぶ跡が考えられるが、無堆肥で栽培すると初期生育が著しく抑制されて減収がある。これらは硼素欠乏症で、大根や白菜などのアブラナ科植物は硼素を多量に吸収するので、これらの跡地では硼素を補給する必要がある。一般に堆肥を施せばこの症状は出ないが、薬剤で補う時は硼砂を一〇kg当たり一キロ位基肥に施せばよい。

普通はイタリアンライグラス、エンバクの跡地に播種することが多いが、最後の収穫を終つてからでは、とうもろこしの播種期が遅れて障害が多くなり減収するので、前作の刈取りを四月に繰り上げて一日でも早く播くのが有利である。

後作には収穫時期に応じ、早い場合はとうもろこしの二回播きまたはカウピー、普

すじ萎縮病の被害

播種期 5月20日



通はエンバク、イタリアンライグラスが多く一部にかぶやレープなどが適する。

とうもろこしは連作しても著しい減収はないが、多収のためにはマメ科植物と輪作することが望ましい。

八 病 害

1 すじ萎縮病 新しい病氣で関東以西で発生し、大きな被害を与えている。ヒメトビ

ウンカによつて媒介されるウイルス病で、幼苗の頃に感染すると節間が伸びずに枯死することもある。軽い場合でも稈長が短く雌穂も小さいで減収が著しい。農業によつて媒介虫を駆除する方法もあるが効果は充分でない。常発地では播種期によつて回避する方が効果的で、宮崎県では四月下旬

～五月下旬を避けて播種すれば被害は少ないと。品種によって発病に差があるが耐病性品種の育種については研究中である。

2 さび病 発生は少ないが晚播きに多く発病し、初期生育が抑制されて減収するので、発生地帯ではなるべく早播きするのが安全である。

3 ごま葉枯病 晚播きの場合に下葉に黄褐色の小さい斑点が現われ、次第に上葉に進み枯上つてゆく。これもなるべく早播きして回避した方がよい。

このようにとうもろこしは晚播きになるほど障害が多くなるので、出来れば早播きで多収を上げ、その後の青刈用は旱ばつや倒伏に強いソルゴーなどを栽培するのが得策のようである。

(育種科長)

へ流れることもあります。

電ボクの下草を

トピックス ハイバーx

枯らす特効薬

◎ 注意 マツ類、ブドウ、ナシ(七年以内は弱く、葉害を生じ枯れることが多い)で、根の伸長している範囲内に使用厳禁

（リンゴ、カンキツ類には葉害なく、除草剤として普及しています。）

★ハイバーxは弊社（直売所）で取扱っております。

電ボク線に、牧草や野草が接触しロード

電して、電ボクの役目を果さないことがあります。そのため、下草を刈り取り排

除してやればよいのですが、モアーラ等を

写真に見られるように、ハイバーxを使用できず手鎌で刈らなければなりません。

例えば殺草が簡単で、一度だけの散布で労力が軽減されて便利です。

ハイバーxの特色は

○ 粒剤と粉剤（水和剤）とがあります。粒剤は手でバラまくだけ、水和剤はフンム器で散布。

非選択性の除草剤

○ 全ての牧草。一～二年生、多年生の雑草全部（ヨモギ、スギナ、ササ、チガヤ等）。灌木にも殺草効果。

○ 敷布時期、効果

一年中いつでも使用できますが、

春～夏が効果的です。

また遅効性で一～二週間後に効力が現われはじめ、散布以外の場所

放牧地の電ボク下に幅70cmでハイバーx粒剤を使用した状況

（送肥料）

粒 剂 一キロ 七五〇円
水和剤 一〇〇g 七五〇円

